

第52回国立大学図書館協会総会ワークショップA議事要旨

日時：平成17年6月30日(木)13:30~16:00

場所：名古屋大学豊田講堂

参加者：117名(88機関)

テーマ：今後の図書館経営について

司会：位藤邦生広島大学図書館長、福政修山口大学図書館長

司会の位藤邦生広島大学図書館長から、本ワークショップのテーマに関する趣旨説明の後、テーマを「組織・予算」、「連携・交流」、「人事政策」の3セッションに分け、セッション毎に事例報告を行った。各セッションの事例報告終了後に、参加者からのフロア発言を交えて意見交換を行った。

1. 「組織・予算」セッション

事例報告1：「研究協力系組織と図書館の統合モデルの1年」(熊本大学)

- ・ 研究協力系の課と統合して1年たち、大学全体の動きが共通認識できるようにはなったが、まだ、研究協力系と連携した新たな事業展開が十分にできているわけではない旨の報告があった。

事例報告2：「小規模大学附属図書館の組織・予算改革」(京都工芸繊維大学)

- ・ 一部局としての附属図書館から一施設の図書館になり、意思決定手順や予算要求の方式も変わり、全体決定に参画できないなど少々苦労しているとの実情が報告された。

事例報告3：「大規模大学附属図書館の組織・予算改革」(九州大学)

- ・ 組織機改革として、戦略機能を発揮する図書館企画課を設置したことや、デジタルアーカイブやICタグ、洋書購入の予算節減案などのビジネスモデルを検討していることについての報告があった。

フロア発言：

- ・ 信州大学から次の報告があった。部長を置かず2課長のうち1課長を副館長にした。館長は理事もかねているので、大学本部と直結となり、館長のリーダーシップを発揮しやすくなった。また、分館という形態ではなく、それぞれ医学部図書館などのわかりやすい形に改革した。

その他の発言として、図書館が独自に企画して行う事業については、著作権等の経営

マネジメント面での留意も重要ではないかとの意見があった。

2. 「連携・交流」セッション

事例報告1：「名古屋大学附属図書館友の会」(名古屋大学)

- ・ 東海地区図書館協議会の設立後の公共図書館連携や平成12年度の展示室開設から平成16年度の「友の会」発足への地域連携事業概要について説明があり、現在180人の会員、年2千円の会費をとっている旨の報告があった。

事例報告2：「広島大学図書館の国際・地域連携活動」(広島大学)

- ・ 国際活動では職員の海外派遣と成果発表会の開催、その活動の中で海外講師招聘、海外機関との連携による事業などを展開しているとの報告があった。
- ・ 地域連携では図書館活動助成金制度の設置や地域交流プラザの開設などを行ったことの報告があった。

フロア発言：

- ・ 富山大学では製薬会社などから会費による地域連携を企画したが、現状では成功していない。今後更につめることになっていることの報告があった。
- ・ 三重大学から学校図書館支援のための連携事業の概要についての報告があった。
- ・ 愛媛大学からは中国四国地区での事業委員会による電子ジャーナルコンソーシアムなどを行っている旨の報告があった。

その他の発言として、図書館は本質的に地域に開放されていることから、友の会の会費に対するサービスのあり方の議論も重要ではないかとの意見があった。

3. 「人事政策」セッション

事例報告1：「東京大学附属図書館における図書館スタッフのための研修プログラム」(東京大学)

- ・ 定員削減による人員削減や専門知識を持った職員の減少に対する危機感から、研修プロジェクトを企画し実施してきたこと、またその内容を館員内で共有できるようにしていることなどの報告があった。

事例報告2：「図書館職員のキャリアパス」(京都大学)

- ・ 国大図協の人材委員会での議論もあり、人事シートを基にした管理職との面談制度など京都大学で実践した例や人材養成のための企画案について報告があった。

フロア発言：

- ・ 北海道大学では休日開館のアウトソーシングを実施しているとの報告があった。
- ・ 大阪大学では2007年以降の大量退職者の人件費を原資としたアウトソーシング計画の検討を開始しているとの報告があった。
- ・ 千葉大学では教員組織と図書館職員との自発的勉強会が行われていることの報告があった。

その他の発言として、世代間のスキルの継承や地域における研修の共有化への要望や人材交流の視点も重要であるとの意見があった。

全セッション終了後に、司会の位藤邦生広島大学図書館長、福政修山口大学図書館長から、各セッションについての総括があった。

「組織・予算」セッション

- ・ 規模の異なる図書館で対応の仕方はそれぞれ異なるが、法人化後の図書館独自のリーダーシップによる企画立案や図書館の重要性を学内に認めさせる事業が重要である。

「連携・交流」セッション

- ・ 社会貢献への取り組みとして、様々な事例報告があったが、各地域の特性に合った地域貢献事業の企画が重要であり、そのための経営コストについてもさらに議論を深める必要がある。

「人事・政策」セッション

- ・ 図書館職員の量と質の低下への共通的な危機意識から、人材養成プランニングが重要であることを確認し、その実施については地域等の複数大学図書館の連携協力が必要である。